



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団
ニュース

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木やす子
42-2462

9月議会 外国産米の輸入中止を 陳情の採択を求める

市議会は9月24日が最終日でした。19年度決算の議案については、負担増の一方で、暮らしを支える施策がないとの主旨で日本共産党の鈴木やす子議員が反対討論に立ちました。また「ミニマムアクセス米の輸入停止を求める陳情」が提出されていましたが、この採択を求めて福田明議員が討論に立ちました。その大要を紹介します。

政府は米の輸入があたかもWTO農業協定上の「義務」であるかのようにいいますが、本来は義務ではありません。現に、汚染米の被害が全国各地に広がる中で、この9月17日、農水省はミニマム



五浦岬公園

六角堂をのぞむ五浦岬公園。このほど雑草がきれいに刈られ、遊歩道も歩きやすくなっています。

ています。この方向にこそ農業政策を転換すべきです。まして現在、汚染米の被害が全国各地に広がり、国民の食にたいする不安を大きくしています。安心のための最良の策は、輸入米を中止することです。そして、「日本の食糧は日本の大地から」を合言葉に、国内の食糧自給率を高めることこそ、日本農業のすすむ道であり、食糧危機が叫ばれる世界への貢献にもつながると確信しています。

日本の食糧自給率は40%という他の先進国にはみられない異常な低さです。国内の4割もの水田を減反する一方で、需要のない外国米を輸入することは何ら道理がありません。MA米の輸入を中止すれば、国内で新たに100万トン相当の増産が必要になるといわれます。

このMA米に関する陳情と同じく、県北農民センターから提出されていた「燃料、肥料、飼料、農業資材等の価格高騰に対する緊急対策を求める陳情」は採択となりました。

農業委員会 で活発な論議

9月22日、農業委員会の定例総会が開かれました。7月の改選後、3回目となります。会議では、事務局から提案された農地案件等の審議

につづいて、会長が、農政問題での論議もすすめたいと口火を切り、地産地消や学校給食などについて活発な論議が交わされました。「自分で農業をやっている

2代続けて政権を投げ出した自公政権の新総理に麻生氏が就任した。安倍氏は岸元総理の孫、福田氏は福田元総理の長男、今度の麻生氏は吉田茂元総理の孫だという。「三度目の正直」という諺もあるが「二度あることは三度ある」という諺もある。今度も途中で投げ出さないのかと心配な国民も多いのではないだろうか。

それにしても閣僚の中に世襲議員の多いのは驚く。総務大臣は鳩山元総理の孫、外務大臣は中曽根元総理の長男、三木元首相の甥が法務大臣、小淵元総理の二女が少子化大臣、そしてハマコーの長男が防衛大臣とくる。何と閣僚18名中11名が世襲議員である。「なつかしのメロデー」ではないが「なつかしの内閣」「昔の名前で出ています内閣」と私は呼びたい。

この間のお祭り騒ぎの総裁選や麻生氏を称した川柳や風刺が面白い。市田書記局長が演説で紹介している「下々は総裁選びに苦心する」や、麻生氏の失言癖をとらえて「バカヤローとだけは言わないで」（吉田茂は国

のに、子どもが通う学校では輸入食品を食べさせられるとしたらおかしい」「安全・安心のためには、何といたっても地元でとれたものを提供することではないか」と

いった発言があり、今後とも全体の会議でぎくぐくばらんに意見を出し合うなかで、何らかの政策提言につなげていこうとの方向が共通の認識となりました。

バカヤローとだけは言わないで 福田明

昔から私の地元の祭り（豊田大六天王祭）が終わると、秋の気配が漂うといわれてきた。今年、この地元の祭りと市民夏祭りが連続して行われ磯原駅周辺は久しぶりに賑わいをみせた。孫を連れて帰省していた娘は「磯原の街にフラガールの曲が流れているのを聞いて胸がキュンとした」と話し、「こんなに市民がいるとは思わなかった。すごい人だった」は、祭りに行つた市民の率直な感想であろう。それだけに街の普段の静けさが心に染みる。萩が咲き、コスモスがゆれ、黄金の稲穂が輝き、一気に秋がやってきた。そして総選挙である。マスコミは「自民が民主か」と騒ぐであろう。しかし、たんに政権の担い手を変えるだけでなく、「大企業本位」「アメリカいいなり」の自公政治の根幹を切り替えて、「国民こそ主人公」の政治をめざす日本共産党の躍進を心から訴えたいと思う。家では孫が祭りの金魚すくいを取ってきた金魚が元気に泳いでいる。